

公益社団法人日本地球惑星科学連合  
平成 27 年度第 4 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 27 年 10 月 26 日 (木)  
午前 10 時 00 分から午後 1 時 00 分
2. 開催場所 東京大学理学部 3 号館 3 階 320 号室  
(東京都文京区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 20 名  
出席理事 16 名 (定足数 11 名 会議成立)  
出席監事 3 名  
オブザーバー 8 名
4. 議長 理事 津田 敏隆
5. 出席役員  
理事 津田 敏隆  
理事 川幡 穂高  
理事 木村 学  
理事 中村 正人  
理事 奥村 晃史  
理事 北 和之  
理事 高橋 幸弘  
理事 田中 賢治  
理事 成瀬 元  
理事 西 弘嗣  
理事 浜野 洋三  
理事 原田 尚美  
理事 日比谷 紀之  
理事 古村 高志  
理事 道林 克禎  
理事 村山 泰啓  
監事 北里 洋  
監事 鈴木 善和  
監事 松浦 充宏

## 6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 佐々木 晶  
大気水圏科学セクションバイspreジデント 杉田 倫明  
大気水圏科学セクション幹事 川合 義美  
地球人間圏科学セクションプレジデント 氷見山 幸夫  
固体地球科学セクションバイspreジデント・2016年大会プログラム委員長  
西山 忠男  
地球生命科学セクションバイspreジデント 磯崎 行雄  
広報普及委員長 田近 英一  
教育検討委員会副委員長 根本 泰雄

午前 10 時 00 分、理事の定数に足る出席があったので、会長津田敏隆は議長席に着き、理事会が成立することを宣言した。インターネット電話 skype を利用し、遠隔地から参加する高橋理事、佐々木セクションプレジデントが審議に確実に参加できることを互いに確認した。

## 7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件（古村孝志理事）

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 2 号議案 委員会委員承認の件（古村孝志理事）

ダイバーシティ推進委員会、フェロー審査委員会の新委員を承認した。

第 3 号議案 教員免許更新講座の件（根本泰雄教育検討委員会副委員長）

教員免許更新制に関わる教員免許状更新講習を開催することについて審議した。長期的な視座を伴ったカリキュラムの必要性に関する議論、連合が開催することについての必然性と意義、運営方針に関する議論等があった。

開設カリキュラム、運営予算、事務作業量等、より具体的な内容が見える計画案を準備し、それを基に、次回以降の理事会で再度審議することとした。

## 8. 報告事項

(1) 津田敏隆代表理事職務報告

津田代表理事より、連合全体の活動について報告があった。

10月16日(金)に開催された経営企画会議についての報告があった。中でも、かねてより内閣府公益認定等委員会から指摘を受けている連合の社員構成の件についての検討状況が報告され、当理事会でも意見交換を行った。今後も充分検討する必要があるとした。

#### (2) 川幡穂高理事(ジャーナル担当)職務報告

ジャーナル出版に関する報告があった。

科学研究費助成事業の中間報告について、報告書の提出が順調に進んでおり、またヒアリングも予定されている。

また、投稿や編集の状況も報告があり、質の高い論文が投稿、出版されていることが紹介された。

#### (3) 木村学理事(グローバル戦略担当)職務報告

11月24日に開催されたグローバル戦略委員会会議の報告があった。2016年大会での旅費援助の指針について、2017年大会に向けたAGUとの契約について、2017年大会におけるリーダーワークショップの開催について、Future Earthについて等の議論があったことが説明された。

また関連して、2017年大会準備タスクフォースの活動報告についても代理で報告した。

2016年大会、2017年大会の準備状況が報告された。12月のAGU Fall Meetingにおいて、覚書を取り交わす予定である。

#### (4) 中村正人理事(顕彰担当)職務報告

中村理事より、来年度連合フェロー候補者を募集中であることが報告された。また、グローバル委員会とタスクフォースが準備を進めている2016年大会の旅費支援について、顕彰委員会に手順案を諮り、問題ないと確認したことが報告された。

#### (5) 古村孝志理事(総務担当)職務報告

前回の理事会以降連合が承認した後援等の報告があった。

選挙について報告があった。代議員選挙は投票、結果公開が終了し、次期代議員が確定した。またセクションプレジデント選挙については候補者が各セクションそれぞれ1名ずつの候補者であったため、投票を待たずに次期セクションプレジデントが確定した。

この後理事候補者選挙を行い、その結果を参考に役員候補者推薦委員会が理事候補者を選出する。役員候補者推薦委員会委員は、現会長、学協会長会議議長、次期セクションプレジデント5名より構成されることが確認された。

また、事務局の就業規則について給与規則、退職金規則を設置する準備をしていることの報告があった。

(6) 北和之理事（財務担当）職務報告

現在の決算見通しについて報告があった。引き続き財務委員会が検討することとなった。

(7) 浜野洋三理事（大会運営担当）職務報告

2016年大会の準備状況について報告があった。

セッションが確定し、28日のプログラム編成会議でコマ編成が確定する。

西山プログラム委員長から、2016年大会プログラム編成での改良点、問題点等が紹介された。2016年大会プログラム編成では、投稿募集よりもコマ割編成を先に行った。そのため、編成作業としては全体に前倒しのスケジュールで作業ができる。また投稿者が自分の発表予定日を確認した上で投稿できるなどのメリットがあった。一方で、大型プロジェクトと関連したセッションの把握が難しい、委員長一人の判断に頼る部分が多いなどの要検討事項も発生した。また2017年大会では基本的に英語でのコミュニケーションが必要となるため、特に事務局の作業への負担を検討する必要があるなど、次年度へ向けての問題提起がなされた。

また、2017年大会の準備についても報告があった。助成金や会場施設など様々な条件を勘案し、2017年大会の会場は幕張メッセおよびAPAホテル施設と決定した。

(8) 教育検討委員会活動報告（根本泰雄副委員長）

理数系学会教育問題連絡会シンポジウムの開催報告があった。例年連合が共同主催として参加しており、委員も活発に参加している。

また、AGI（American Geosciences Institute）との会合を開催したことが報告された。

本小委員会開始時の委員をお願いする会員のリストを示し、異論は出なかった。今後は本小委員会がAGIとの活動の窓口として対応することとなった。

(9) ダイバーシティ推進委員会活動状況報告（原田尚美理事）

「女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い～」への参加報告があった。今年で三年目の参加となる。地学など連合の関連する分野への関心は充分とはいえないため、今後も積極的に活動してゆきたい。

(10) 学協会長会議報告(日比谷紀之学協会長会議議長)

10月8日に開催された学協会長会議の開催報告があった。連合の活動報告、学会会議の近況報告があった旨が報告された。報告事項(1)でも報告があったように、連合の社員構成について学協会長会議で意見交換をしたことが報告された。

(11) セクションからの報告

杉田倫明バイスプレジデントより、大気水圏科学セクション活動報告があった。日本学術

会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会が開催された。「防災学術連携体」(旧「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」)とも連携をしてゆく。学協会にも協力をお願いしたい。

また、モンスーンアジア水文気候研究計画(MAHASRI)国際科学会議の紹介があった。連合でも協賛することとなっている。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後1時15分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成27年11月26日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第4回理事会

出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	高橋	幸弘	印
出席理事	田中	賢治	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印

出席理事	原田	尚美	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	古村	高志	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	村山	泰啓	印
出席監事	北里	洋	印
出席監事	鈴木	善和	印
出席監事	松浦	充宏	印